

2025 年度研究大会

「再考:教育の場は社会を反映できているのか!？」

日 時: 2025 年8月8日(金)・9日(土)
場 所: 京都外国語大学 R452
形 式: ハイブリッド開催(一部対面のみ)

▼プログラム:

8月8日(金)

12:30~ 受付
13:00~13:10 会長挨拶 由井 紀久子
13:10~15:10 研究発表【オンライン配信あり】

| | R451 | R452 |
|-------------|---|---|
| 13:10-13:40 | 行木瑛子(沖縄大学)・岩崎典子(南山大学) 「食べたい」「作りたい」を引き出す力: レシピ 翻訳によるオノマトペを活用したプロフィシエン シーの育成 | 木下謙朗(龍谷大学)・三原龍志(龍谷大学)・真田聡 美(龍谷大学) 大学プレースメントテストにおける口頭能力測定 の試み: JOPTとJFロールプレイテストの測定結果 から見える課題と可能性 |
| 13:40-14:10 | 堀野善康(京都外国語大学大学院) 雑談AIと台湾華語母語話者のチャットによる雑談 の研究—上級学習者の第二言語不安と言語使用に 着目して— | 鈴木梓(福井大学)・権ユラ(秋田大学)・難波えみ (山口大学) 高就職率大学における留学生の地域定着意識調査 |
| 14:10-14:40 | 加藤恵梨(愛知教育大学)・田口達也(愛知教育大学) 日本語学習者が用いる「オーケー」の特徴 | 服部明子(三重大学) 地域連携活動における留学生のプロフィシエン シー形成の質的分析 |
| 14:40-15:10 | 宮岡余里子(KOTO KATO A) 初級学習者の「自分のことばに会う活動」の検 討と提案 —ロバート・F・メーガの理論に基づ く質的検証— | 横田葉子(永興日本語学園東松山校)・唐旻(永興日 本語学園東松山校)・倉持りえ(永興日本語学園東松 山校) 日本語教師からみる多文化共生のリアル2025 年—日本語学校の役割 |

15:10~15:30 休憩

15:30~17:00 ワークショップ【講演部分のみオンライン配信あり】

「能力」という名の光と影—子どもと学校の関係からゆたかさとかしこさの接点をさぐる」
南浦 涼介氏(広島大学)

近年の日本の公教育で重視される総合的なコンピテンシーと、言語教育で検討されるプロフィシエンシーの
概念は系譜の違いという点を持ちながらも総合的な能力という点においては類似し、今後も接近しあうだろ

う。例えば、外国につながる子どもたちはこの両者の交差点にいる。一方で、子どもたちの教育において「能力」概念は光と影を併せ持つ。たとえ教科学習でも明確な能力に還元しえない面も多い。しかしマイノリティの教育はその状況自体が教師や支援者を「能力形成」に押しやりやすい。子どもたちの育てと力の捉えにおいて、「能力」との冷静な距離を持ちながら、しかし知的なものに触れていく接合点はどのようなものか、それを検討したい。

17:00～ 事務連絡

18:30～ 懇親会

漁港直送 海鮮酒場 あんじ 麩屋町綾小路店

<https://s.tabelog.com/kyoto/A2601/A260201/26002870/>

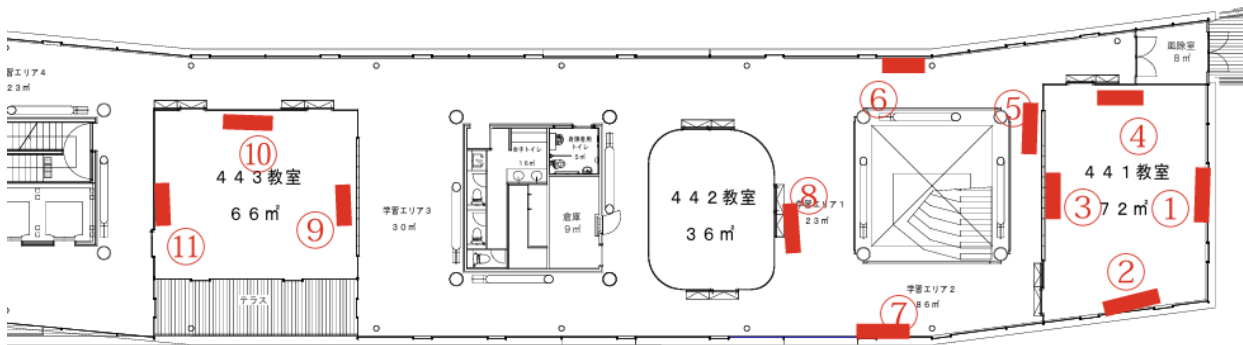
5500 円(飲み放題付き)

8月9日(土)

09:30～10:30 ポスター発表【対面のみ】

| | 発表者「題目」 |
|----|--|
| 1 | 津坂朋宏(東京福祉大学留学生日本語別科)「公共のルールを守るためのプロフィシェンシー—言語景観における視覚的強調語句に注目して—」 |
| 2 | 石橋明子(近畿大学)「「学校に来たい」要因となるクラスコミュニティと教師の働きかけ—日本語学校に通う留学生のインタビューから—」 |
| 3 | 麻生迪子(四天王寺大学文学部)・高橋美奈子(四天王寺大学文学部)・上谷崇之(大阪日本語学院)「日本語学校と大学日本語教員養成課程の「共育」活動の実践」 |
| 4 | 村田幸一(京都芸術大学)「外国人留学生向け日本語授業における「深い議論」を促す問いの設計」 |
| 5 | 川崎(下駄)真奈美(Usec International School)「ある日本語学校での作文ルーブリックの作成及び実践」 |
| 6 | 黒川直子(デューク大学)「地域姉妹都市連携を活用した COIL 型語学教育の試み」 |
| 7 | 岡部康子(静宜大学, 国立陽明交通大学)「聴解自律活動が台湾人日本語学習者に与えた影響—学習者の振り返りから見る成果と課題—」 |
| 8 | 森田絢美(ワシントン大学セントルイス校)「中級日本語学習者の期末作文におけるピア・レスポンスの実践: 相互協働的学習の可能性」 |
| 9 | 佐々木良造(静岡大学)・石松文枝(マレーシア日本国際工科院)・尾沼玄也(拓殖大学)・佐藤淳子(北海道大学)・シーラパーノン ウィパーウィー(サイアム大学)「多読支援アプリのユーザビリティ調査」 |
| 10 | 荻田朋子(大阪経済法科大学)・宮崎聡子(関西学院大学)「プロンプトの特徴は高校生の小論文の文段の区分にどう影響するか」 |
| 11 | 元木佳江(四国大学)・城本春佳(四国大学)・小倉和也(四国大学)「介護福祉士を目指す留学生に対する自己モニタリング能力を高めるための試み—JOPT-K の自己評価をもとに—」 |

発表場所 4号館4階 *当日、多少の変更がある可能性があります。



10:30~10:45 休憩

10:45~12:45 講演【講演部分のみオンライン配信あり】

「社会・文化とプロフィシエンシー —「社会を反映する」という発想」

佐藤 慎司氏 (プリンストン大学)

プロフィシエンシーは「現実生活における機能的言語能力 (鎌田・山内・堤 2009)」と定義されることが多い。例えば、依頼、勧誘といった機能的な課題が「言語を通じてどれだけ効果的に適切に遂行できるか (OPI Tester Training Manual 2012)」を示すものであるとも言える。そして、機能的言語能力は社会・文化を反映してもいると考えられる場合も多いが、その社会・文化はだれが作っているのだろうか。本講演では、発表者が実践した米国日本語学習者と日本の日本語教育演習履修者の共同プロジェクト活動を分析することで、プロフィシエンシー概念は常に形成途上にあるものであり、ことばの教師を含む言語使用者すべてがその構築に関わっていることを再確認したい。

12:55 閉会

13:00~13:15 臨時総会

▼参加申込: <https://forms.gle/SJE35D3d3EdlJtEn9> (8月1日まで)



▼凡人社さんが来てくださる予定です。

▼お問い合わせ: taikai@proficiency.jp